



河端部長

新産業都市の建設へ

まず都市化のための基盤整備から・・・

村と一緒に、開発を進めていくという体制を考えて行かなくてはならぬ

いと考へるんです。今年、市町村にお願ひして市町村ごとの対策なり、計画を

たてるようにしていただかなくてはならぬ。ないでしょうね。

開発的な手法をとったわけですが、従来は全県的にまとめてみていたのですが、今度は、地域的な要素を織り込んでいこうと考えています。

全県を区域的に新産地帯、振興地域、それに開発地域と三つに分け、その開発地域を阿蘇球磨、天草と三つに分けていくわけです。そうして、その地域ごとの開発の方向を提出して、各種の行政をそれに合わせていこうとするものです。

——前の県計画では、まず、県の大きな計画が示されて、それに各市町村の計画の積み上げがされたのですが、今回は、そうした地域的な区分になるのでしょうか。

村田 いや、今度も県計画ができましたら、市町村ごとによってそれぞれ具体的な実施の計画を立てていこうと思つています。だから、今度の場合も、県と市町

村田 鉄道の複線化・電化はです、新産地帯市に決定して、四十五年までの工業出荷額がどの程度になる（二千五百二十六億）、その場合の貨物量が鉄道で何、道路で何、航路何、になる。人の動きがどれ位、という計算をし、それに合わせて、国鉄ではまず輸送力を増やすために電化を先んじてはならない。そういう意味で複線化・電化は昨年の春早々に決まっちゃったわけですね。これは、今度の八月頃完成、十月営業開始ということで、今年には輸送の面では非常に明るい年です。同時に複線化の方も、四十二年に完成する、ということになります。これは、国鉄の方でも開港が進めば輸送量がふえると判断したわけ、新産地帯市の指定ということが、非常に大きく影響したと云えますね。これは大分県の場合も同じです。

——さて、新産地帯市の関係で、今年はどうな姿であらわれてくるでしょうか。

盛り上りをみせるのですが、実際に、今はそのひとつ前の段階、内港を拡げること、五千ト岸壁を一万トにするとかの事業です。いわば、地道な事業の段階ですね。

村田 建設基本計画がきまりましたので、基本計画の目標に沿うよう財政力や経済事情などにあわせて事業が進められるわけですから、急に今年から変わった姿がでてくる、ということはないと思うんです。

村田 まず、新産地帯市をつくるということは都市化を進めるということなんです。四九州の拠点としての広域的な大都市をつくること、そして、その要素として工業化をはかり、都市の整備をはかるというのが新産地帯市の目標なんです。同時に、その周辺、背後の農林水産業地帯の振興を、そして、全体として調和のとれた都市を作っていくこととするものですね。

——荒尾は、かがですか。

河端 コーレス工場七十門について、今年でさき上げます。

ただね、例えば、八代七十五万坪の造成地に石油がまいったとか、鉄が進出してくる協定がなされたとか、そうした目に見えるものが出てくると、いかにも新産地帯市建設というところで、何となく、

義をもつものと思ひますので、もう少しくわしくお話ししますと、電化は今年の十月から新しい電車が入ってきます。複線化の方も、四十二年に完成する、と同時に熊本から八代までの複線化、かかわるわけですが、今のところ、四十五年までに、肥後二見まで電化、日奈久まで複線化が完成する予定になっています。その具体化が今年から始まるわけですね。その意味で、新産地帯市の区域内では、電化・複線化の見通しがついた、これを推進する年が始まるんだ、ということが云えるわけですね。

九州縦貫高速道路 — いよいよ今年から着工

——交通問題で、縦貫高速道路、それから空港についてひとつ……。

村田 まず縦貫高速自動車道路、これは、九州道といふ名前を使っているんですが、高速自動車道には東北道、中央道、中国道、北陸道、それに九州道の五つの計画があるわけです。これらの道路は今年から着工になる予定です。今年の四、五月頃には具体的な路線の計画がでると思ひます。四十年まではそう沢山事業費は認めないと思ひますが、それにしても一応着工の運びになる筈です。まあ青森から鹿児島まで貫く高速自動車道路



新産地帯で複線化 電化も急ピッチ

——鹿児島本線の熊本までの複線化電化の問題は、非常に急ピッチで進まされて、早くも、今年には電化の方が完工する予定となっておりますし、あるいはまた、九州縦貫高速道路の計画もあります。が、こうしたものに、新産地帯の指定がやはり良い方向に影響しているのでは、う。

業が進められましよう。

しかも、それは背後の開発地域に波及効果を及ぼすような格好でやっていたら、いかなければならない。そういう意味で、新産地帯市の建設をするといっても、一挙に大都市ができるわけではなく、都市化のための漸進措置が進められるので、いわゆる目に見えない形で進められるものは、どちらかといえば、既存の事業の拡大、あるいはテナゴをあげた形で進められる、といったことになると思ひます。